



はくぶつかん

1977. 12. 1 平塚市博物館

12月の行事

- 3** 浮世絵展
5
18 「東海道五十三次と平塚宿」
 主催：神奈川県立博物館・平塚市博物館
 場所：平塚市博物館特別展示室
 リーフレット無料

- 4** 体験学習シリーズ No.18
 (日) 「紙をすこう」
 しめ切り

- 11** 自然観察会
 (日) 上井の口付近の地質と冬の自然の観察を

します。
 しめ切り。

- 21** 星を見る会
 (水) 「木星を見よう」
 木星のもようや衛星を観察します。
 時間：午後5時～7時
 申し込み：12月11日までに往復ハガキで。多数の場合は抽選で30名。なお小学生以下は父兄同伴でお申し込みください。

1月の行事

- 12** 自然観察会
 (木) 「社寺林を歩こう」
 社寺を歩き、石造物や社寺林などを観察する。
 場所：北金目～真田
 時間：午前10時～午後3時
 申し込み：1月4日までに往復ハガキで

申し込み：1月8日までに往復ハガキで。多数の場合は抽選で30名。なお小学生以下は父兄同伴でお申し込みください。

- 18** 星を見る会
 (水) 「火星を見よう」
 望遠鏡を使つて 赤い火星を観察する。
 時間：午後5時～7時

- 22** 体験学習シリーズ
 (日) 「糸を作ろう」
 自然の中から糸になりそうなものを探し、それから糸をとり出す工夫をためしてみます。カラムシやクズなどの植物、ヤマユなどのガのまゆで実験する予定です。
 時間：午前9時～午後4時
 申し込み：1月10日まで往復ハガキで。多数のときは抽選で20名。



行事に参加ご希望の方は、往復ハガキで博物館へお申し込みください。ハガキには、住所・氏名・電話番号を忘れずに記入してください。

未来考コーナー展示替え

2階展示室の未来考コーナーを展示替えし、新テーマ「都市と動物」が1月5日からお目見えます。

大きなビルが立ち並び、地面もコンクリートで固められた「都市」は、野生の動植物にとって住みよい所ではありません。都市化が進むにつれて多くの動物が姿を消していくことはよく知られているとおりです。一方、都市という環境に積極的に適応し、たくましく生き残る少数の動物も見られます。「都市と動物」と題した今度の展示では、都市化の動



物に与える影響をこうした2つの観点から紹介してみたいと思います。

平塚で発見された建物に巣を作ったキジバト、大磯の西湘道路の高架に巣を作ったイワツバメなどの実例も紹介し、未来の都市の中での動物の姿を考えることをねらいとしています。ま

た、都市に生き残る動物の大きな要素である「帰化動物」についても展示を行ないます。どうぞ御期待ください。

千石船 — 2階「海と生活」に展示中

相模川の河口に位置する須賀は、漁業の町としてばかりでなく、河口を自然の湊とし、相模湾の一港町でもありました。2階の「海と生活」のコーナーに展示中の和船の模型は、千石船と呼ばれるもので、物資の運搬船です。江戸時代中期以降物資の運搬に活躍する麦垣・楯廻船はこれの大型のもので、五百石積みから千石積みの主用としました。千石船という呼称は、こうした千石積み級の荷物がごく普通に使用されるようになって、これが一つの基準となり、この呼称が普及したものです。そして、それがさらに荷船の一つの型を呼ぶ総称ともなりました。ですから、須賀にあつた荷船は必ずしも千石積みでなくとも荷船ということで千石船と呼ばれました。和船の歴史からいえば、この船は井才船という型になります。井才船二千石船として使われているわけです。

さて、須賀にあつた千石船の大きさですが、江戸時代末の『新編相模国風土記稿』には、「大船は入らず、四百石積みの船を限とす」とあります。千石積みというと約150トンの大きさですが、須賀湊に入つたのは四百石積み、つまり60トン以下の荷船ということです。

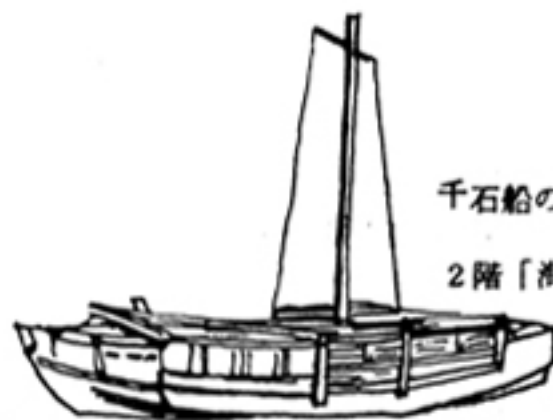
須賀では明治末ごろまで清歎丸と妙法丸の2隻の千石船があり、房州九十九里から千鰯(ホシカ)、遠州新横須賀から遠州コマシなどの肥料等を運搬

していました。須賀からは相模川を使つて上流の村々へ、また陸路をつかい近在の村々へ供給されました。

明治時代以前、須賀には上の2隻を含めて6隻の千石船があつたといわれています。船主・船名は次のとおりです。

妙法丸	} みかん屋	明神丸	} 源後藤源助
妙徳丸		観音丸	
清歎丸	尼屋	安全丸	田中屋

(ナオ)



千石船の模型
2階「海と生活」

はくぶつかん VOL2 NO9
昭和52年12月1日 通巻20
発行・平塚市博物館
〒254 平塚市浅間町12-41
TEL 0463-33-5111
印刷 平塚市総務部行政課文書係
©1977